

市民まちづくりワークショップの開催結果

1. 開催概要

(1) 開催日時及び開催場所

2018年7月13日(金) 札幌市役所8階 1号会議室

【第1部】14時00分～16時00分

【第2部】18時30分～20時30分

(2) 参加者数

案内を受け取った市民のうち、参加希望者(市が無作為抽出した市民約2,000人に対し参加案内を送付)

【第1部】17名 【第2部】13名

(3) プログラム

①開会

②挨拶

③説明

1) 本日の進め方

2) ワークショップに向けた話題提供(第2期札幌市市民まちづくり活動促進基本計画の概要など)

④ワークショップ

1) アイスブレイク

2) グループワーク

A 自己紹介

B 参加しやすい「まちづくり活動」と参加しやすくなる「機会」

C 結果発表

⑤挨拶、閉会

2. 開催結果

- 身近な活動は、比較的自由に取り組めるものが多いことから取組のハードルは低いと感じられている傾向である。
- 町内会活動は地域の催事に関する取組が多く挙げられ、運営者・参加者とも人材確保が難しいと感じられている。
- 自ら企画する取組については、活動内容が理解されにくいことや、活動に一定の準備（場所や人員の確保）が必要などの理由で、取組のハードルは高いと感じられている。

→地域で行うまちづくり活動については、参加者の門戸を広げる取組や、活動のイメージアップ、活動したことの効果を実感できる仕組みなどが必要

- NPO 等の団体活動では、取組に関わらず、活動内容を理解してもらうことが難しく、参加者を募るのが難しいと感じられている。

→地域に限定せずに行うNPO等の団体活動については、活動内容を理解してもらうための取組や、ニーズに見合った活動が提供できる仕組みなどが必要

(1) 参加しやすい「まちづくり活動」と参加しやすくなる「機会」

①身近な活動（普段、日常的にできるもの）

- ・活動のイメージでは、挨拶などの日常的なコミュニケーションのほか、美化活動、除雪、通学路の見守りなどの活動が多く挙げられた。
- ・いずれの取組も比較的取り組みやすいと認識されている傾向であり、その理由として、「家に近い場所で活動できる」、「時間が短くて済む」などの制約の少なさに関連するものが挙げられた。
- ・参加するために必要なきっかけ等では、「まちのルールを知ってもらう」、「年齢問わず関わることができる」など、参加のための門戸を広げるもののほか、「まずは挨拶から」、「子どもが主体的に取り組む（大人の模範になる）」、「パフォーマンスと連携した取組のイメージアップ」、「取組を実感できる仕組み（数字による見える化）」などが挙げられた。

②町内会活動や団体活動（NPOなど）への参加・協力

- ・お祭りや子ども会、防災活動、花火大会等の町内会に関連する活動が多く挙げられたほか、NPO 法人の活動では介護ヘルパーの派遣、過疎地域への若者派遣、子ども食堂などの取組も挙げられた。
- ・町内会活動では「日中働いている人に対する参加の呼びかけが難しい」、「集合住宅へのアプローチが難しい」、NPO 法人の活動では「取組のイメージを理解してもらうのが難しく参加者が集まりにくい」など、取り組みにくさに関連する意見が比較的多く挙げられた。
- ・参加するために必要なきっかけ等では、「活動内容がわかりやすい情報発信」、「参加者の都合に合わせた参加の仕組み（時間帯などの工夫）」、「参加するメリット（参加ポイント制度など）」が挙げられた。

③自ら企画して行う活動（地域を良くするために、意識的に取り組むもの）

- 子育てサポートや地域の介護施設の手伝い、朗読会、子ども食堂、小学校などによる特別授業（保護者が子どもに専門知識の教育）などの取組が挙げられた。
- 活動場所の手配や、人を集める（運営者、参加者）などの手間がかかるため、取り組むことが難しいという意見があった。
- 参加するために必要なきっかけ等では、「個人でも意見や提案しやすい環境」、「活動したことへの対価」、「運営者の負担軽減」などに関する意見が挙げられた。

(2) 開催の様子

